

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

第3回 開催報告

まちなかエリアの魅力や課題を見える化しよう！

2025.6.15

開催報告

テーマ

まちなかエリアの魅力や課題を見える化しよう！

開催概要

- 日時 : 2025年6月15日（日）13:00-16:30
- 開催場所 : 伊那市生涯学習センター「いなっせ」北東側広場を出発し、まちなかエリアを「まち歩き」した後
伊那市産業と若者が息づく拠点施設「allla」1F多目的室
- 参加者 : 約40人（一般参加：約20人、協議会メンバー、市職員、関係者：約20人）

プログラム

1. 「まち歩き」をしよう！

- ・好きな「まち歩き」コースを選び、様々な立場を想定して、いくつかの“視点”を持って「まち歩き」
- ・「まち歩き」の中で感じた魅力や課題を写真やコメントで集めて、みんなでマップを作成

2. 発表・振り返り・交流タイム

- ・それぞれのコースがどんな「まち歩き」だったか発表・振り返り
- ・作成したマップをもとに、さまざまな「まち歩き」コース参加者が混じって対話・交流

「まち歩き」西町・荒井コース



「まち歩き」西町・荒井コース

【ルート】

- ・ いなっせ→通り町商店街から天竜川方向が下り坂になっていること、小沢川方面が登り坂になっている地形を確認しながらセントラルパーク方向へ歩く。
- ・ 小沢川にかかる伊那橋を渡り、坂下入舟の交差点を西へ左折、常円寺→坂下の辻の石碑を見て、小沢川に戻る。
- ・ 歩行者専用の「やちよ橋」を渡り、「めいじゅうばし」まで川沿いを歩き、交差点を右折し、すぐに左折、ラドン温泉菊の湯の前を通り、改修中の松磊さんへ。
- ・ 松磊さんの中を見学させてもらった後に、合同庁舎の北側を抜けて創造館に突き当たったところを左折。
- ・ 坂を下り、伊那街道を横断しペルー料理屋を左手に踏切を渡る前に右折、バスターミナルの裏手の道を田中病院の交差点まで進む。
- ・ 左折し踏切を渡って直進し、恵比寿神社まで進む。
- ・ 踏切方向へ折り返し、踏切前を右折、kurabeさんの前抜けて、草の音さんを見る。そのまま東方向に進み道なりに右折。
- ・ ひだまり薬局さんの交差点を左折し、再び東方向に進む。大きな岩と月極駐車場のある交差点を天竜川方面に右折し、alliaへ戻る。

【参加者の様子】

- ・ 参加者は平賀研也さんのガイドに興味津々な様子であった。
- ・ 歴史的な背景や地形を感じながら歩いて新しい発見があった様子であった。
- ・ 坂下の辻や、小沢川の橋を歩いて、今まで知らなかったけど魅力になり得るかもしれないという視点で見られた。

【新たな発見・気づいたこと】

○「セントラルパーク」

- ・ 子供たちが自由に楽しめる場所と感じた。
- ・ 人が集まる空間であるが、日影がなくて暑そう。
- ・ 高校生が、雨や暑い時は、休憩所に設置してある鉄筋にテントをかぶせて、帰るときは片づけていく。
- ・ この場所を、朝マルシェやイベント、プランター、野菜栽培など、地域の方が自ら活用し実施しているのが素晴らしい。
- ・ いろんな方が、この場所に関わっているのが良い。
- ・ この場所は、市有地であるので、もっと多くの方に関心をもっていただき、有効に活用いただきたい場所である。
- ・ 駐車場を公園にして、一体的に広く使えるようにしたらどうか。

「まち歩き」西町・荒井コース

【新たな発見・気づいたこと】

- 「伊那合庁の西側」
 - ・以前に比べて、随分、建物が取り壊されて、空き地や駐車場になっているのに驚いた。すごい勢いで空き地が増えている感じがする。
 - ・まちなかは緑が少ないので、ほっておくと、自然と緑が増えて良いかも。
- 「まちなかの空き家や駐車場」
 - ・空き地、空き家は、全体的にどんどん増えている。利活用を上手にできたら良いが…。
- 「坂下の辻」
 - ・趣があって、面白く良い場所である。
 - ・昔の街道として、人が通れるだけの道幅の道があり、初めて通ったが、気持ち良かった。
 - ・「歩行者専用道路」にして、遊歩道にしたらどうか。木曽の中山道などは、遊歩道として観光客が歩きに来ている。観光客や市民が歩く道になるかもしれない。
- 「レトロ」
 - ・料亭「松喜」さんは、昔のレトロ感満載の建物が、伊那にも残っていることがすごい。中に入れていただいたが、このような建物は大変貴重と思う。
 - ・免許証を差し込んで年齢確認をするレトロなお酒の自販機を見つけた。
 - ・駐車場になった土地にレトロ感を宣伝する看板が数多く設置されている。一緒に昔の料亭の地図などが表示されていれば、興味を持って歩く人もいるかもしれない。
- 「水路」
 - ・まちなかのいたるところに、水路が流れている感じがした。昔は生活用水として大事な水路であったと思うが、今は、た、流れているだけかもしれない。この水路を近隣住民の方が、毎週どぶさらいをしてくれている。
 - ・流れがある水路があると、涼しさを感じる。音も心地よい。都市熱が下がる効果があるかもしれない。

「まち歩き」西町・荒井コース

【新たな発見・気づいたこと】

○「ウォークアブルシティ」

- ・伊那北駅から伊那市駅のまちなかエリアをまち歩きのエリアとして検討しているが、中心を走る県道をメインに考えるのは良いのかどうか？裏通りをメインに考えても面白いかもしれない。
- ・「歩行者天国」や「ウォークアブル」をやるには、通り町から西町エリアなら、新規のお店も点在しているので人も来るかもしれないが、伊那北駅から伊那市駅までは、歩いて寄るお店が無ければ厳しいのではないかと。違う切り口を考えても良いと思う。

○「西町エリア」

- ・普段、車で通るだけでは分からなかった新規のお店があった。「kurabe」さん、「ゲストハウス」、「吾路」さん、「草の根」さん、「rear coffee」さん、「西町ガレージ」さんなど。
- ・面になってはいないが、新規の元気な店舗が点在している。可能性を感じた。

○その他

- ・現在、通り町の東側も、駐車場が多くある。また、大きな空き家や廃業したホテルもあるので、公園にして憩いの場所になったらいい。
- ・まちなかを歩いてみると、この中心市街地は、商業地なのか、住宅地なのか、工業地なのか、分からない。街に統一的なコンセプトがなく、建物が乱立している感じ。どうしたらよいか？

「まち歩き」伊那北コース



「まち歩き」伊那北コース

【ルート】

- ・セントラルパークまではコース全員で移動、橋を渡ったところから、完全に分かれて別行動
- ・セントラルパーク東の橋の上から、歌碑や景色、入船の歴史などについての話題があった。
- ・伊那小下の道、ちょうど河岸段丘の上の段と下の段をつなぐ急な歩道（東西）を重点に歩いた参加者もいた。
- ・伊那街道ではなく、西側の細い小道を中心に散策した参加者もいた。

【参加者の様子】

- ・終始和やかな雰囲気であった。実際に歩いてみて初めて発見するもの、風景を感じていた様子があった。

【新たな発見・気づいたこと】

- ・通り町の本通りから、一本西側の裏道、そして、その並行する二本をつなぐ狭い歩道、私道も魅力があった。
- ・特に細い小径や立派な蔵、歌碑等、普段の生活ではあまり気に留めないものを改めて認識した。
- ・歴史を感じられるもの、古き良き風景等の魅力を感じつつ、道路や建物等の老朽化、適さないとと思われる広告（ポスター）もあり、安全面、景観面での懸念も感じた。

「まち歩き」飲み屋街コース

対話・つながり・実現の場



「まち歩き」飲み屋街コース

【ルート】

- ・ いなっせ → アルプス食堂さんの裏 → 門やませんさんの裏 → ともえ食堂さんの前 → 入舟有楽街 → 迎賓館さん → アドニスさん前 → 豚大門市場さん → タイトさん前 → リカーズイリタさん前 → 国道沿い → 地下道 → 動物横丁 → 青山横丁 → 錦町新地 → 和しんさん前 → 春日酒造さん前 → バスターミナル裏 → rear coffeeさんで休憩 → allla

【新たな発見・気づいたこと】

- ・ 昔は迎賓館さんの料金が高かった、ここには何があった、この店はまだやっているのか？など過去との比較
- ・ 調布市に住んでいたことがある方が、調布市と伊那市は似ているとおっしゃっていた。
(伊那市は旧道、鉄道、バイパスが並行して走っている。調布市も甲州街道と京王線が並行して走っている。)

「まち歩き」 イーナちゃんバスコース



「まち歩き」イーナちゃんバスコース

【ルート】

- ・参加者7人、最年少は小学校1年生であった。
- ・13:21通り町発の外回りに乗車し、約40分で1周し14:00にバルターミナルで降車した。
- ・その後、通り町を北に歩き、「すまいテラスいな」やバラの小径を通り、伊那市駅前の公衆トイレの展望台に登り、駅前周辺を展望した。

【新たな発見・気づいたこと】

- ・通り町では、シャッターが降りている店の多さから寂しさを感じる。シャッターを統一したデザインにできないか。
- ・当日雨が心配される天候だったのでアーケードがあってもよい
- ・バラの小径では、このような通路があったのだという驚きがあった。
- ・駅前では、荒廃した建物の見苦しさや展望台に立ったときの目線に電線が入り見晴らしがよくない。

「発表・振り返り・交流タイム」会場の様子

対話・つながり・実現の場



「発表・振り返り・交流タイム」記録 西町・荒井コース

対話・つながり・実現の場

- ・通り町と西町の県道を、週末「歩行者天国」にしてもおもしろい。
- ・裏通りが面白いから、活用を考えてみては。
- ・中心市街地には、緑が圧倒的に少ない。公園にして緑地化し、「住宅エリア」としてはどうか。
- ・荒井神社の北側の一段下がった場所は、放置しているので、自然に緑地になっている。
- ・坂下の筋が綺麗な感じになっていたり、古い家をリノベーションしているところもあり、新たな資源になり得る。
- ・住宅エリアにすれば、教育移住による伊那小学校への通学が出来る。
- ・史跡がある。水路がある。飲食店もある。人が集まってくれば、必然的にスーパーや食料品店も出店するだろう。
- ・駐車場も住んでいる人にとっては、必要だから需要がある。
- ・このエリアを昔の様に「商業エリア」として復活させるのは難しいのではないか。であれば、魅力的な住宅地として再生させられないか。
- ・アメリカでは、「パーク&パーク」という手法があり、道路を週末にイベントに使っている。真似てみても面白い。
- ・考え方を換えれば、このエリアはポテンシャルがある。一体的に活用ができれば良いが…。
- ・空き店舗の利活用について、所有者と使用者のマッチングのシステムがあれば、もっと住宅や店舗の活用が進むのではないか。
- ・わんさか人が集まるエリアにならなくても良いのではないか。自分の店を好きになってくれる人が来てくれる店舗にしたいのであって、混雑するようなイメージを店舗も求めているかもしれない。
- ・歩きながら町を巡るのは良い。レンタサイクルがあったらよい。レンタサイクルの拠点を3つ程作って貸し出せば、普段から高校生も移動に使うだろう。
- ・車で来られた方は、いなっせや伊那図書館、合庁、セントラルパークなどに車を止めて、まちなかを歩いてもらったらどうか。
- ・伊那のまちにも史跡や歴史があることが分かった。史跡めぐりをしても面白い。
- ・セントラルパークはまちなかの緑地としてもっと活用できるのではないか。まちなかの空き地でも緑地になっているところがあるので、そういったところをどう活用していくか。
- ・セントラルパークを伊那の魅力として捉えた人もいれば、課題として捉えた人もいた。市民によく使われていて魅力になっているという意見があった一方で、日除けが足りていないといった意見もあった。
- ・同じ対象物でも見る人によって課題にも魅力にもなる意見があって面白かった。
- ・空いている月極駐車場が多く、未利用になっている場所をなにかに活かさないか。

「発表・振り返り・交流タイム」記録 伊那北コース

- ・通り町の歩道で壊れたところ、建物の壁がはがれて危険な箇所（頭上注意などと表示）がある。
- ・バラが置かれており、フランセ板屋さんは良い景観を形成している。
- ・歌碑や、伊澤多喜男の碑など石碑が意外に多い、また神社の祭りの説明など無形文化財的なものも意外にあった。
- ・段丘の上と下を結ぶ歩道は面白い景色を形成しているが、荒れていたり、危険箇所もある。
- ・クラブの女性たちの写真が載った看板が通り町から丸見えであり、あまり印象がよくない。
- ・入舟駅のところを鉄道マニア向けに宣伝したらどうか。
- ・伊那北高校に上がっていく歩道がせまく、危険（すれ違えないほど狭い）新校に寄せる期待の大きさと不釣り合いなので、何とかしたい。
- ・きたっせの第二駐車場（フランセ板屋さんの駐車場の東側）に入っていく道が狭く不便
- ・きたっせの第二駐車場と、伊那北駅の駐輪場が接しているが、車の通過ができないので不便
- ・第1部同様、終始和やかな雰囲気であった。
- ・昔から伊那のまちなみを知っている方や、伊那に来てから年数がたっていない方等、様々な視点での意見発表があった。
- ・「懐かしい！」や「あー、あったね！」等、昔から伊那を知る方の懐かしさを感じている姿が印象的であった。

「発表・振り返り・交流タイム」記録 飲み屋街コース

- ・昼間人がいない。
- ・車に乗って出かけるためか人がいない
- ・空き地が多い。人が住んでいないのでは？
- ・昼間見ると建物の老朽化が進んでいる。
- ・お店がわかる地図があるとよい。地図がないと喫茶店がどこにあるかもわからない。
- ・看板だけだと入りにくい。
- ・お店が変わるため、紙媒体の地図だと変化に付いていけない。
- ・マップは作るまでに手間がかかる。（情報の確認など）。情報もすぐ古くなる。
- ・若い人が飲み屋を開店するときに、中溝通りではなくて駅前が開店する流れになっている。
- ・若い人はインスタ、ネットで情報収集している。
- ・ボランティアでgoogle mapにその店を載せてあげる仕組みがあるとよい。Google mapに載っていないと何も無いまちに見えてしまう。
- ・スナックなどの情報がほしい。（入ってみないとどんな店かわからないのは怖い）
- ・東京などでは、インバウンド向けのナイトツアー（スナックなどを回る）があるらしい。
- ・昼と夜の顔が違う。
- ・家賃を払うために、昼間仕事をしているスナックのママがいると聞く。
- ・昼は別のお店を開く人を募集して、夜はスナックにすれば、昼と夜で家賃の折半ができるのではないか。
- ・空き店舗や駐車スペースを探している人もいれば、貸したい人もいると聞く。マッチングできれば、スムーズにまちの活性化につながるのではないか。
- ・エリアを分けて整備していけばどうか。
- ・同じような店が集積することが魅力の一つだと思う。エリアで区切って店舗を募集してはどうか。
- ・「赤い部屋」さんや「Rear coffee」さんは若い人が多い。若い人は面白いところには集まる。魅力があると滞在したくなると思う。

「発表・振り返り・交流タイム」記録 イーナちゃんバスコース

- ・乗車したバスに外国人が乗車し、降車場所が分からず困っている様子で地図を見せたら分かったようだったが、リアルタイムでの現在位置表示、現在位置を地図上の番号で表示するなど、外国人や観光客のため、車内において目視で現在位置が分かるような案内が必要ではないか。
- ・車内で空いている時間に地域の歴史などのアナウンスをしてはどうか。
- ・マクドナルドさん付近、綿半さん付近は、バスが右折する必要があるが、道路が狭く渋滞を引き起こす原因となっているとの意見があり、バスの通路を確保する路面標示や右折レーンの設置をしては。
- ・利用者が降車するのは、ベルシャインさんやドン・キホーテさん等の商業施設であったので要所は考えられて循環している。
- ・市役所は乗り入れるのに伊那北駅に乗り入れないのはなぜか。
- ・踏切を通らないルートも考えられるのに踏切を通るのはなぜか。
- ・子どもを連れて行ける公園に停車してもらおうとよい。
- ・乗車する方の属性を分析してみてはどうか。どんな人が乗っているのか深掘りできれば見えてくるものがあるのではないか。
- ・運賃のキャッシュレス化について検討してはどうか。

(参加者アンケートから)

第1部「まち歩き」の感想や「まち歩き」を通して感じた魅力や課題

<西町・荒井コース>

- ・ウォーカブルな歩行者用道路、親水性のある歩道、中溝通り、その中心にあるセントラルパークの使い方、位置づけなど、交通制限や歩行ルート設定などの社会実験を通して、気運を作っていけたらと考える。
- ・古さ(歴史)と新しさ(AI)を融合させたまちづくり
- ・普段生活していても通らない道や何気なく通り過ぎている場所などで、新しい気づきがあった。
- ・おそらく市民でも知らない資源もたくさんあるかもしれないと思った。
- ・平賀研也さんの案内のおかげで、深みの出たまち歩きになった。
- ・木と水のまち伊那のまちなかが緑と水で溢れたら、ユニークさが増すと思った。
- ・裏町・小路・通学路をまずウォーカブルに。
- ・Park(駐車場) & Park(公園)
- ・水路の利活用
- ・若い人のビジネス+αチャレンジをさらに後押しするには
- ・住む所(住宅地)としての魅力(→小商いに波及)をいかに増すか。(×商店集積)

<伊那北コース>

- ・歩く目線で多くの気づきを発見
- ・沢山の発見があった。小道、不便なところ、生かしたい景色、伝統的なものなど。
- ・商店や飲食店の閉店で駐車場スペースが増えている現実も見えた。
- ・車で通行していたのでは気がつかない視点があった。
- ・歩くことで、クルマで通っても気がつかない新たな発見があった。
- ・街の中にも歴史的なポイントがたくさんあることを知ることができた。
- ・魅力を発信することが重要だと思う。
- ・魅力…バラの街
- ・課題…シャッター街をどうする、学生が増える伊那北駅をどうする。
- ・古い歴史のある地域だと思った。
- ・裏道と表通りを結ぶ小道がきれいになるといい。

(参加者アンケートから)

第1部「まち歩き」の感想や「まち歩き」を通して感じた魅力や課題

<飲み屋街コース>

- ・風景としてレトロ感があるのと、入りたくなるお店、滞在したい街なみは別もの
- ・普段行かない場所、通らない路地を使って、新たな発見があった。
- ・昼間歩くことがほとんどない。
- ・ある意味、新鮮な感じがする。店の名が変わっていたり、空き店舗になっていたりと、駐車場や空き地であったりと、時間の流れ、さみしさを感じている。
- ・昼間人がいない、夜も昔に比べればかなり歩いている人が減ってきている。見える化が必要
- ・ふだん歩かない時間帯の飲み屋街を歩いて面白かった。
- ・昼間の店舗活用、入り易い情報の発信が必要と感じた。

<イーナちゃんバスコース>

- ・バスに乗るのは初めてで、貴重な経験であった。
- ・天竜川を境にまちの様子が異なり、それぞれの違いを感じることができた。
- ・初めて伊那市でバスに乗った。他の参加者も普段あまりバスに乗らないようで、バスに乗ってまちのことを考える良い機会になった。
- ・写真をとってコメントを入力しようということで、今まで見ても気にもしなかったことに気付けた。
- ・写真を撮るのが難しかった。
- ・初めてバスに乗った。車窓から見る景色は新鮮だったが、バスの車内にルートやバス停の案内が表示されると親切だなと思った。
- ・海外研修生が乗車し、車内で対話、乗車料金が安いこと、ショッピングに行く時便利だとの話が聞けた。
- ・降車の時、ボタンを押すタイミングやランプが点灯しても何回も押していた様子から、乗降方法等、外国人への案内が必要だと思った。
- ・アナウンスが最後列座席の位置だと聞き取りずらく感じたので、タブレットなどを活用（掲示）で乗降案内を図や簡単な漫画などで表現したり、位置情報の提供や伊那市の名所案内、企業広告などができると良いと思った。
- ・車窓からの景色から、整備された公園が好感、傷んだシャッターの街並みが見苦しかったので、伊那市を紹介するようなテーマ（例えば、伊那街道、歴史文化、イベントなど）を決めてシャッターに描いていただき、昼夜明るく、楽しく散策できるように、また、謎解き、スタンプラリーなどを取り入れて遊び心のある街並みにできればと思う。

(参加者アンケートから)

第2部「発表・振り返り・交流タイム」の感想や共感できた魅力や課題

- ・夜のお店が家賃を払うのに苦労しているので、昼にお店を開く人を募って家賃を折半するというアイデアが出て、とても良いと思った。
- ・若い人はグーグルマップを見るので、ボランティアでグーグルマップに載せてあげる人がいるとよいというアイデアが出て、これはどこかでぜひ出来れば良いと思った。
- ・竜西地区は、空き家などの利活用を考えていく必要があること、竜東地区は、交通渋滞の解消等が必要という意見に特に共感した。
- ・公式LINEを用いた「見える化」は、非常に分かりやすく、とても良い方法だと感じた。
- ・古き良きまちなみを残しつつ、これからの時代を見据えて変わるべきところは変わらなければならない。
- ・昔からの地元の方にも利用しやすいことに加えて、観光や外国の方、伊那に慣れていない方でも理解しやすいよう、停留所の場所やピクトグラムや数字等の共通言語を意識することが必要である。
- ・地図や写真を見ながらみなさんの意見を共有できたことがよかった。
- ・課題や魅力を可視化して、行政に一方的に投げかけるのではなく、行政は政策のヒントにする、市民は行政にできないことをするきっかけにする、という可視化の目的を協議会の民間の人から説明があったことが参加者が自分ごととしてまちづくりを捉えるきっかけとなるので、よかったと感じました。
- ・まちやエリアの性格(住宅地や商業地等)を決めた上でのまちづくり
- ・バスルートでの交通の課題は重要だと感じた。
- ・これからの公共交通について検討が必要だと感じた。
- ・多くの視点で多角的にみることができた。
- ・同じセントラルパークを見ても、魅力にも課題にも捉えることができていたのは、そのとおりだと思った。
- ・写真の共有はスムーズだった。
- ・位置情報の正確さには課題がある。投稿したつもりが反映されていないものがあった。
- ・イーナちゃんバスの課題は確かにあると思う。様々な立場で考えてみるが必要だと分かった。
- ・小道の姿
- ・遺産がある。
- ・駐車場が増えている。昼は人がいなくて道も車も通っておらず、別の活用法があるのでは？
- ・若い人がチャレンジしやすいまちづくりに共感した。
- ・話し合いをすることで、別な意見も聞いて良かった。
- ・日中の使い方、夜とも違う街づくりも良いのではと思う。
- ・一次会で終わってしまい、次へ流れていくということが少ない。
- ・週末スナックはそれ程客が入っていないという話もママから聞く。
- ・若い人達は違う場所へ行くようで、人が歩いているのに店はそうでもないないということがある。
- ・もう少し時間をかけてやると良いかもしれません。

(参加者アンケートから)

第2部「発表・振り返り・交流タイム」の感想や共感できた魅力や課題

- ・毎回思うが、少しあわただしい。
- ・外から見える飲み屋さん…いいかも。
- ・食品スーパーがどこかに…必要かも。
- ・知らないことがたくさんあった。
- ・可能性がたくさんある街だなと感じた。
- ・ウォーカブルについて考える。
- ・住む、商う、マッチング（含促進政策）について考える。（担い手・仕組み）
- ・参加者の皆さんの視点の違いに多くの発見があった。大変参考になった。
- ・今あるものを有効利用、活用すること、同じ通りで昼のまち、夜のまちを考え、活用するお話しに共感した。

今後参加してみたい「対話・つながり・実現の場」のテーマ、関わりたいまちづくりの取組

- ・弥生ヶ丘高校の利活用について
- ・各エリアの達人の話があると良かったと思う。そのためにも、市史や資料、そこに住んでいた人の言葉は大事そうだと感じた。
- ・ターゲット世代を決めたまちづくり
- ・障がい者にも対応できるまち
- ・移住者、大学生、転勤者など外からの視点での魅力発見
- ・空き地の緑地（公園）化
- ・空き店舗のマッチングなど
- ・道路の渋滞を少なくしていくみたいなことができるといいなと思った。

その他意見、ご感想

- ・まち歩きで進みながら写真を投稿するのは忙しいと思った。結局alllaに帰ってきてからまとめて投稿した。
- ・企画・運営等いただきありがたかった。
- ・今回のまち歩きマップをまとめて、ホームページに掲載していただきたい。
- ・ワールドカフェ形式に切りかえて成功だと思った。時間的にも一定の枠に収まりよかった。
- ・投稿に対して投票するしくみが欲しい。
- ・こうしたイベントを通じて、市内外の意見を吸収し、今後の伊那市のまちづくりに活かしてほしい。
- ・多くの人の思いを聞くことで、魅力や課題が見えてくる。

(参加者アンケートから)

その他意見、ご感想

- ・まちづくりの具体的なコンセプトを示してもらえると参加しやすい。例えば…
まちの構想に関わる部分
自然に触れ合う、憩いの場はどういうところに？
誰もが多様な交流のできる場はどういうところに？
- ・今回、具体的な内容であったので、多くの方が参加されると期待して参加したが、学生、若年者、そこに暮らしていらっしゃる住民のみならず、さまの参加が少なく、新たなまちづくりに多くの方のご意見をお聞きしたかったので、ちょっと残念に思った。
- ・今後の進め方など、スケジュールをお示しいただけると参加できる方が増えるのではないかと思う。

メンバーコメント

○まちなかエリア高度化ワーキンググループ リーダー 黒河内貴

普段車で通過していた道を実際歩いてみて気が付くことが多かった。また小さな発見、課題、着想を気軽に写真に収め、位置情報と共にメッセージも添えて発信し、それを他人もみることができるといった技術の可能性を感じた。その写真付きメッセージに共感する人が、投票（いいね！）をつけることで賛同者の数がカウントできるようになれば、優先順位や市民の要望として拾い上げやすくなり、行政サービスのヒントになるのではないかな。

循環バスに乗っていた外国籍の方の困りごとを聞き取った事例も含めて、住民主体のまちづくりの強力なツールになると感じた。

○まちなかエリア高度化ワーキンググループ メンバー 政金裕太

今回のまち歩きでは、「計画されていないおもしろさ」をテーマに歩いてみた。例えば、駐車場が舗装されず契約者がいないと草が繁茂して緑地化している様子や、庭先の園芸が町の風景の一部になっている様子など、きれいに計画されていないからこそ見られるものだと思った。

今回参加してくださった方が、今回の経験をどう次に活かすのかは正直明確ではなかったが、個人的にはまちなかの未利用・低利用地が今後のいなまちの骨格作りに活かさないか興味をわきた。

○企画政策課 課長補佐 有賀慎

バスの移動速度が速いので、参加者のみなさんが投稿できるか心配したが、結果として課題が見える化したマップが完成してよかった。

公共交通担当だが、様々な視点から意見がいただけてよかったが、後で市の公式LINEの交通メニューの中に市街地循環バスの位置情報を見ることができることを、参加者にもっと広く伝えられればよかったと反省した。

○企画政策課 新産業技術推進係長 村田和也

タイトルに「魅力や課題が見える化しよう！」と威勢よく書いたものの、最後まで本当に見える化できるか不安であったが、当日は、第1部「まち歩き」の成果が第2部「発表・振り返り・交流タイム」で見事にデジタルマップ上に見える化され、それを元に参加者の皆さんの交流が盛り上がる様子を見て、胸をなでおろした。

今回「まち歩き」という体験と「見える化」を通し、より具体的な交流ができた。事前、当日の準備・運営に関わっていただいた皆様、本当にありがとうございました。

今回の取組を昇華させるよう協議会、ワーキンググループで取り組んでいきたい。

メンバーコメント

○都市整備課 伊那北駅周辺整備係 田尻勇木

普段は車で通り過ぎることが多く、かつ大通りしか通らないこともあり、新しい発見ばかりであった。今回のように、普段の生活とは違う方法、視点でまちを知ることが非常に大切かつ有意義な時間であった。

昔の良き文化、風景、建築物を残しつつも、変えていくべきところは手を加え、これから使っていく未来の人がより楽しめるまちにしてい
く必要があると考える。

車社会のため、普段感じることが少ないが、歩く人の視点や感覚も非常に重要だと感じた。

循環バスの車内表記や停留場所等、使い慣れていない方、日本語に不慣れな方にも分かりやすいということも、暮らしたいと思えるまちに
つながる重要な視点であると感じた。

参加者集合！



伊那新校、上伊那総合技術新校の開校を契機に、
多様な皆さんとこれからの伊那市のまちを共に考えて創っていきたいという想いで「新しいまちづくり」が始まりました。

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

誰かがやってくれるまちづくりに意見する、ではなく、自分がつくる、取り組む人と共にある。
そんな、つながり、対話し、実現する場をどうしたらできるだろうか。

これからは、想いのある皆さんと共に考え、試行錯誤しながら共創の場をつくっていければと思います。

いつでも、思い立った時に、ふらりと参加でき、まちのこと暮らしのことを気軽に話せる場。
もっと知りたい、もっとやりたい、やってみようが生まれる場。
そんな新しくゆるいコミュニティが生まれる場。

そんな、いつでもそこにある場に育てていきましょう。